

## 県外派遣報告書

審判員名	安東 光陽	所属	クラブ連盟
大会名	第4回東日本クラブバスケットボール大会		
期間	平成29年5月4日～5月5日		
会場	ALSOK群馬アリーナ		
スケジュール			
期 日	内 容		場 所
5月4日、5日	一般男子、女子、シニア、スーパーシニア		ALSOK群馬アリーナ
実技			
担当試合	期 日	5月4日	シニア
	対戦カード	BUZZER BEATER VS 高崎マスターズ	主審 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">副審</span>
	相手審判	矢吹 健二氏(茨城)	
ミーティング内容		主任	河野氏
<p>・リードの際に右側へ行く回数が少ない。ローポストでのポストアップがあれば、4番ポジションでの攻防が無い場合は右側へ行き判定を行うべき。また、右側のエンドラインからのスローインの際に、選手にボールを渡してアウトマチックにセットアップポジションへ戻っているが、選手の位置取りにより右側に残っていた方が良い場合もあるので、選手の位置取りを確認して判断すべき。</p> <p>・クセのある選手もいるので、選手やベンチが騒がないように毅然とした態度で臨むべき。判定に対して必要以上に文句を言うような選手には警告を与えてよい。</p>			
担当試合	期 日	5月5日	スーパーシニア
	対戦カード	40Borders VS 文京ブルーギル	<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">主審</span> 副審
	相手審判	助川 礼門氏(群馬)	
ミーティング内容		主任	小沼氏、齋藤氏
<p>・顔に肘が入ったファールについて、テクニカルファールからアンスポーツマンライクファールへ訂正する場面があり、選手やチームから説明を求められた時に正しく説明できるか確認されました。接触があったため訂正したことを回答しましたが、いつでも正しい説明ができるような判定を意識すべき。</p> <p>・プレイを見過ぎてニューリードに入るタイミングが遅いので、静止して迎え入れる判定ができていないケースがあるので、意識してポジション取りを行うべき。</p> <p>・レポーターングの際に、もっとメリハリをつける。レポーターングの位置もTO席に近づきすぎないこと。</p> <p>・スーパーシニアという年齢層になると突き出しのトラベリングが気になると思うが、ディフェンスが不利とならないような場合は選手にできるだけプレイさせてあげることも考慮して判定すべき。</p>			
全体の感想			
<p>普段あまり吹くことのないシニア、スーパーシニアの試合を吹いたことで、新しい視点を持つことができました。影響を確認し過ぎたことで、結果として逆の判定となる場合があり、早めにプレイを切ることの必要性も今後の反省点としていきたいと思いました。</p> <p>県外でのレフリーで多くの県の方と交流を持つことで、判定や動き方について多くのことを学ぶことができました。このような機会を与えてくださったことに感謝します。次の機会を頂けるように精進していきたいと思えます。</p>			